

## あなたもいつかプレイヤーに、 そのためのために

5月の新聞では、〇〇過去最高益達成、△△大幅減益といった見出しで企業の決算内容が紙面を賑わせます。これは、3月に年度末を迎えた企業が、会計利益を公表し、その内容が新聞に取り上げられるからです。企業の1年間のもうけを表す会計利益は、ただの数字に過ぎません。しかし、この会計利益を巡って様々な人々の思惑がぶつかり合い、会計利益を中心とした数字のゲームが日々繰り広げられていることをご存知ですか？

このゲームの主人公は、会計利益を算定する企業の経営者です。会計利益を求める決まりは緩やかなもので、経営者はある程度その数値を上下させることができます。株主から無能のレッテルを貼られないために、経営者は利益を大きく見せたいと考えます。しかし、国に納めるべき税額はざっくり言うと会計利益によって決まるため、節税のことを考えれば、利益は少ない方が良くもとも思います。一方で、アナリストは自分の企業の利益はこれくらいになると予想しているので、株価を下げないためにはその予想を超える会計利益を公表したいとも考えます。こんな風に、ただの数字である会計利益が、株主や国、アナリスト、投資家という他のプレイヤーの思惑によって、経営者を悩ませるのです。

経済学研究科 **村宮 克彦** 准教授

このゲームとあなたは無縁ですか？いまは、そう感じるかもしれませんが、将来、経営者になれば、この会計利益を巡って頭を悩ます当事者となり、株式投資をすることになれば、投資家としてこのゲームに引きずり込まれるのです。会計、ファイナンス、ミクロ経済学といった幅広い知識を身につけ、数字が出された背景をきちんと分析できるようになれば、決して会計利益に翻弄されることなく、このゲームに参加できるようになります。賢明なプレイヤーを目指して、一緒に学んでいきましょう。

### プロフィール

2002年大阪市立大学商学部卒、  
博士(経営学)(神戸大学)。  
神戸大学経済経営研究所講師、  
大阪大学大学院経済学研究科講  
師を経て、2015年より現職。

